

令和4年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 2【号】



人格形成の基礎

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

桜の季節がやってきた。函館に赴任するまでは花見といえば、桜をその場で少しななめ上に見たり、お弁当を持参したときは地面に座った場所からやはり上を見上げて花を見るのが通常だった。ある年、五稜郭公園に桜を見に行き、何気にお堀の上を歩いたとき、桜の花がちょうど目線の高さと同じところにあった。しばらく歩くと目線の下に桜がある場所もあり、それまで、見上げてしか見たことがなかった桜の花を、いつもと違う角度で見たときの光景は新鮮だった。

さて、あるスポーツ選手が桜の花を見てこんなことを言っていた。「私たちは、記録を更新したり、勝負に勝ったり、いつも結果を出すことを期待されている。桜の木に例えるなら、いつも花を咲かせることを求められている。華やかな部分に人は目を向けるけれども、本当に大事なものは、しっかりとした幹を形作り、桜として、人としてそこにあることなんじゃないか」と。

きれいな花を咲かせられるのは、見た目には見えない根や、しっかりとした幹があってこそである。幼稚園教育要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として下記の10の姿を掲げ、生涯にわたる人格形成の基礎、いわば根や幹を培うこととしている。

1. 健康な心と身体
2. 自立心
3. 協同性
4. 道徳性・規範意識の芽生え
5. 社会生活との関わり
6. 思考力の芽生え
7. 自然との関わり・生命尊重
8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
9. 言葉による伝え合い
10. 豊かな感性と表現

園児たちは、毎日毎日、いろいろな事を学び、考え、そのたびに小さな花を咲かせている。やがて、大きな花を咲かせる日がくるだろう。そのために、幼児期の終わりまでに、本園でしっかりと根や幹を育みたい。そして、普段の保育では、花だけではなく根や幹もしっかりと見つめていきたい。

